

平成 25 年度 ながのまちづくり活動提案公開審査 講評

「ながのまちづくり活動支援事業」は平成 15 年度から始まって今年度は 11 年目になります。この間、補助金交付申請団体の活動内容や、市民公益活動のあり方などを考慮しながら、この事業補助金が有効に活用されるよう、審査方法や配点方法などを見直しながら、工夫・改良を重ねてきました。

今回の審査では、特に公益性と自立性ということを重視しました。公益性については、より広く地域の人々の利益となるような活動であってほしいということ。また、自立性については、この事業が自立を支援、応援するための事業であるという観点から、行政依存ではなく、自分たちの足でしっかりと立ってマネジメントできている活動であるということ。こういったことを改めて強調した審査を行いました。

各団体のプレゼンテーションを、この公益性と自立性という観点から拝見しておりますと、企画研究部門の団体は、これからどのように活動をしていったらよいのか不安を感じ、迷っているような印象を受けました。しかし、発表団体がホップ・ステップ・ジャンプと上がっていくに従って、特にジャンプの団体の皆さんはこの過程を一步一步上がってきたことを感じさせる、自信に満ちた発表をしていました。

例えば、今年度ジャンプ枠の長沼歴史研究会は、企画研究段階では、自分たちの地元にお城があったことすら分からなかったのですが、地域の人たちがみんなで力を合わせて発掘・調査をしたり、地図を作ったりして、地域の歴史を自分たちで掘り起こしました。このように、みんながひとつになって、地域の歴史を大事にしながら伝えていこうという、皆さんの熱い気持ちが強く感じられました。

そのほかの団体も同様に、ホップ・ステップ・ジャンプと上がっていくに従って地域力とか、住民力、自治力といったものが育っていく、そのプロセスを一緒に拝見させていただけたと思いました。

住民の内なる力、地域力、そういったものが、この「ながのまちづくり活動支援事業」によって備わったのではないかと感じます。これから 1 年間の活動成果を来年 3 月の活動発表会のときに皆さんがどのように報告していただくのか今から楽しみにしております。これからもそれぞれの活動をがんばっていただきたいと思います。

平成 25 年 4 月 14 日

ながのまちづくり活動提案審査委員会